

能美市商工会とのタウンミーティング

日 時 令和5年12月21日（木）15時30分～17時

会 場 寺井地区公民館 303会議室

参加人数 26名

1. 開会

2. 商工会事務局長ご挨拶

3. 井出市長市政報告

○令和6年度予算編成方針

・いよいよ来年に向かうこともあり、今日は令和6年度の方針目的を中心に皆さんにお話をさせていただければと思う。ただ、我々の市の施策というのは議会の承認を得ないと進められないので、今日は具体的な事業のお話はできないが、令和6年度はこんなことをやっていくという、方針目的にとどめさせていただいた範囲の中となるが、ご了解をいただければと思う。

○令和5年度予算編成方針

・令和5年度は、7つの事業・施策、5つの方針・目的があり、全て移住・定住の促進につながるという方針でやっている。

・当初予算は268億5000万円だったが、交付金等がいろいろ入り昨日の議会最終日の報告では、289億1000万円となっている。これは特にコロナ対策、物価高、エネルギー高対策で国からいろいろと交付金をいただき、いろいろと使わせていただいたということもある。

・昨日、能美応援特典券の第6弾を議会で承認いただいた。2月に各ご家庭に特典券を今回は郵送させていただく予定をしている。

・市税は大変好調であり、令和元年度には初めて90億円を超え、令和4年度は過去最高の90億9200万円となった。背景にあるのは、やはり企業誘致が好調だということと、地場産業も大変好調だということ。固定資産税、あるいは法人市民税の収入がずっと伸びている

という背景です。

・先日、J O L E Dが使用されていた社屋を、TOPPANが買収され能美市に進出される。大変ありがたい話であり、加賀東芝も増資されており、経済産業省の補助を受けられることも決まった。こういった電子関係は、社屋だけではなく中に入る機械の価格が高額なことから、固定資産税として能美市に税収がもたらされ大変ありがたく思っている。

・移住定住の促進をやっていながら、実際の人口はどうなっているか。常々申し上げているが人口というのは、自然動態と社会動態の二つに分かれる。お亡くなりになる人よりも生まれてくる赤ちゃんが多いと自然増。引っ越して行く人よりも引っ越してくる人が多いと社会増。

・全国的に今、自然減であり能美市も残念ながら今は自然減。特に新型コロナウイルス感染症が拡大をしていたとき生まれてくる赤ちゃんの数が大きく減った。お亡くなりになる方も年々増えてきていることから、現在は自然減だが、おかげさまで社会増にはなっている。ところが、自然減を社会増でカバーできていないので、今能美市はちょっと人口が減り始めている。これをどう食い止めて、今後人口を伸ばしていくかが能美市における課題。

○令和5年を振り返って

・令和5年もあと9日ほど、どんな1年だったか。今年の決意を込めた漢字は「導」の字を選んだ。「導」と書いてデジタルと読んでほしい。デジタル技術をどんどん取り入れて、市民の皆さんに安心安全快適に暮らしていってもらおう、ということからこの字を選んで1年をスタートした。

・市議会の一般質問で、今年を振り返った漢字は何と聞かれたので「立」という字にした。背景にあるのはデジタル技術を、いろんな形で今年取り入れ、立ち上げられたということ。それから昨年8月4日の大雨を受けて、復興復旧が進み、治水対策もいろいろやってきた。治水対策で一番効果があったのは、宮竹用水との協定。これまで大きな雨が降っても、宮竹用水は農地を守るために水を取り入れていた。昨年8月の大雨を受けて、大雨が降った場合には、手取川から水を取り入れるのをやめた。そうすることによって宮竹用水は排水として市内に降った水を海に流すという役目変わった。実は能美市は、海に直接注いでる川がない。市内に降った雨は、手取川か梯川に流して海に注ぐことになっている。いかに手取川、梯川に流すかが大事なポイントとなっていて、排水路、用水路をどう活用していくかが能美市の治水対策の最も大切な部分になる。

・それから感染症が5類に変わった。約3年間いろいろ苦しい思いをしてきたが、ようやく普段の生活が取り戻されるようになった。そしてこの「立」を選んだ背景だが、今年は加賀立国能美誕生1200年であり、創立150周年を迎えた小学校が5つあった。いしかわ百万石文化祭が県内全域で開催され、まさに石川県の文化立県が体験できた、実感できたそんな1年だったのではないかと思う。

・加賀海浜産業道路では、手取川に橋が架かり川北まで繋がったことで、やはり便利がいい。その他この道路アクセスだけでなく、いろんな施策をやることにより能美市という町の立地条件もだいぶ上がってきたのではないかということから、「立」という字を今年選ばせていただいた。

○令和6年に向けて

・来年はどんな年になるのか。3月16日にはいよいよ北陸新幹線が能美市内にも走る。並行在来線となる北陸本線はI R いしかわに経営が変わる。翌日3月17日には全日本競歩能美大会が開催される。この大会はパリ五輪の選考大会にもなっており大変注目の大会。前日にはプレイベントも開催されるので、ぜひ皆さんお越しいただければと思う。

・秋にはJ Rのディスティネーションキャンペーンがあり、相当の人が来る。新幹線を使われて相当の人が来られるので、この機会を活用したいと思う。

・令和6年度ということになると、2025年の2月1日が能美市制誕生20周年となる。20周年に向けた施策にも取り組んでいく。

・令和6年度予算編成方針では、新たな5つの方針と目的を作った。まずは防災減災対策です。過去経験したことのない大雨を教訓に、自然災害や事故事件などにもしっかりと対応していく。そして市民力地域力の強化、これは今年度も取り組んでいるが市民力・地域力というのは能美市の強みでもあった。ところが新型コロナウイルス感染症の拡大に伴いその力がだいぶ落ちてきた。例えば市内には74の町会・町内会があるが、壮年団や女性会・婦人会の人数が大幅に減ってきて、中には解散したところもある。ボランティアの登録をされている人数も減ってきている状況で、この市民力地域力をどうやって上げていくかも大変大きな課題になってきている。

・令和6年度の新たな取り組みとしては、地域ブランドの確立。能美市の強みとなるような、核となる施設や取り組みをもっとたくさん増やしていき、新幹線開業の効果をしっかりとあげていく。これはかねてから申し上げているが、新幹線開業の3月16日はスタートで

ありゴールではない、これからもずっと続いていく。それから一番は交流人口の拡大ではないと言っている。もちろん交流人口の拡大が最大限の効果だとは思いますが、私は地元の産業や企業誘致をさらに伸ばすことや、ひいては移住定住の促進に繋げていくことを考えている。

・ゼロカーボンシティについては後程説明する。インクルーシブシティ構想では、さらにデジタルの導入を促進させていろんなことをやっていこうと考えている。

○災害・事故対策

・昨年の大雨の振り返りだが、市内には、鍋谷川、西川、熊田川という川が流れており、この沿川だけではなく市内全域で溢水した。結果的に、床上・床下浸水が約180件、農地に水が入ったのは20ヘクタール、土砂が入ったのは12ヘクタール、イノシシの柵が2キロにわたって壊れ、川をせき止めて水位を上げて、その上げた水を田んぼや畑に流していく頭首工という物があるが、鍋谷川にあった15か所の頭首工が全部壊された。これを受けて、いろんなことをこれまでもやってきたし、これからさらにやっていきたい。

・ガイドブックの見直しを今している。8月4日の大雨のときに根上総合文化会館タントが指定避難所でしたが、周囲に水がついてしまった。タントに行きたいけれど、行けないという人がいらっちゃって、もう1回ガイドブックを見直す必要があるだろうといろんな作業を始めている。

・個別避難計画という、お一人お一人の避難計画を作ることもやっている。8月4日は夏休みだったので、子どもたちは家にいて学校には行っていなかった。時間も朝の5時半だった。例えば一人暮らしの人が昼間の10時に大きな地震があったとき、どこへ逃げるか、誰が避難所へ連れていってくれるか、ということ。地震の場合はこうだけれども、台風の場合は、大雨のときはどうかといろんな災害があり、いろんな時間帯がある。それぞれの皆さんがこの時間にその被害があったらどこに逃げるか、誰と逃げるかというものを一人一人作っていこうというのがこの個別避難計画。8月4日の大雨で被害が大きかったエリアから順番にやってきている。ただこれは作るのに大変な苦労が必要になる。皆さんもお気づきだと思う。自分を誰が助けてくれるか、高齢者お1人だったとすると、夜や休日なら隣の人が助けてくれるかもしれない。平日ならどうなるか、それぞれの場面でまさに誰が助けてくれるのか、こんな被害のときにはどこに行くか、これは大変難しいことですが、これを作っていかなければならないと今始めている。

・我々行政だけでは市民の皆さんの安全安心が担保できないということから、企業さんに避難所として使わせてください、大きな災害があったときに、ブルドーザーやショベルカーを貸してくださいというような協力協定を結び始めている。

・交通事故対策では、宮竹小学校エリアに県内で初めてゾーン30プラスを作った。福岡小学校エリアにも作ったんですが、渋滞時の抜け道として学校の側を猛スピードで車が通り抜けていく。これが大変危険だということで、30キロ以上のスピードが出ないようにいろんな取り組みをしている。

・公共施設も順次整備を始めており、特に学校。市内に11の小中学校があるが築50年が面積比で約35%を占める。これをどこから直していくか、一つ手を付けると全部やっていけないといけない、大変な金額になるがこれをやっていく。橋や道路、空き家対策も進めていく。

・鍋谷川の治水対策では、まず一番被害が大きかった和気小学校の周辺、寺畠町の川幅を広げて堆積土砂を取っている。鍋谷川は梯川に注いでいるので、梯川を広げていかないと、鍋谷川の水が入っていかない。梯川というのは勾配がなだらかで流れが緩やかなのでなかなか流れていかない。ですから梯川も広げてもらわないと鍋谷川の流れがスムーズにならないということで、これは今県が中心になってやってくれている。

・西川、熊田川も手取川に注いでいる。大雨時にはバックウォーターをするので、樋門をつける工事の設計が始まっている。福島の上りさぎ団地でも溢水したことから川幅を倍に広げていく工事をしている。

・能美市の公式LINE、皆さんお友だちになっていただいている思う。8月4日の大雨のときに、朝皆さん仕事に行っちゃい、こんな事になっていると知らなかったという声もあった。防災行政無線だけでなく、スマートフォンに文字で流す。災害情報だけでなく、能美市のいろんな情報もここから取れ、能美市のホームページにもリンクしているのですぐに見られる。

・防災フェスタというイベントを開催している。これは能美市の消防本部がどんなことをやっているかの紹介や、ぜひ消防団に入団してもらい一緒に能美市のために頑張ろうという取り組みで、いろんなことやっていて、商工会建設部会の皆さんの大変なご協力をいただいております改めて感謝申し上げます。

・8月4日の大雨を忘れないように、防災センターの一部のコーナーを改修して昨年の8月の雨がどんな雨でどんな被害があったのか。そしてどんな対応をしていたかがわかるような

展示を今年度中にできればと思っている。

○市民力・地域力の強化

・お祭りやイベントをもっとたくさんやっていきたい。根上り七夕まつり、辰口まつりは過去最高の人出だった。特に小・中・高校生が多かったという印象を持っている。やはりコロナ禍でなかなか外に出られなかった人たちが、待ってましたと来てくれたのではないと思う。

・市内には74の町会町内会がありそれぞれ公民館がある。ところが、公民館は大分古くなってきて、建て替える必要がある。大きな町は財力があるのでできるが、小さな町は自分のところだけではなかなか厳しいというお声を聞いていて、何とかそんな町に対して市としてバックアップできないかと考えている。

・居場所作り。連続的に稼働している子ども食堂は今市内で2ヶ所ある。そのうちの一つが、オアシスつるしんと言って、緑が丘にある旧つるしん緑が丘支店を活用している。夏休み等には子どもたちが朝昼晩ごはんを食べにくる、2階には麻雀卓宅があり、子どもたちと高齢者が一緒になって集う場所になっている。多世代間交流ができる場所で大変今注目されている。こんなことをやりたいと思っていただける方がいれば、能美市には地域力強化支援ファンドがあるのでぜひ活用してもらえればと思う。

・もう一つ大事なのはふるさと愛の醸成。能美市民に自分が住んでいる場所を好きになってもらわないといけない、誇りをもってもらわないといけない、ということがやはり大事だと思っている。皆さんそれぞれいいと思っているところがあると思う。自然が好き、風土がいい、それからお祭りや昔遊んだ遊び場、恩師、仲間、家族、こういう人たちがいるから自分は能美市に住んでいるんだということがあると思う。住んでいる人にそうしてもらうために市として何かできないかと思っている。

・再来年の2月に市制誕生20周年をむかえる。今市史の編さんをしている。根上、寺井、辰口の町史はあるが能美市には市史がない。県内の市で市史がないのが野々市と能美市だけだったので、これは20周年に作らないといけないと作り始めた。

・北陸鉄道能美線の跡の健康ロード。結構人気があって多くの市民が利用している。ただ、桜の根が隆起していたり、通学路にもなっているが街灯がなかったりするので、整備していく。全長が16キロあるので、3年間かけてやろうと考えていて2025年の完成を目指して整備を始めている。2025年は能美電が開通して100年、廃線になって45年、能美市制20周年

という大変記念すべき年。健康ロードの能美電の駅があった場所に看板があるが、その周辺にどんな施設があるかが分かるように看板も見直していこうと考えている。

○地域ブランドの確立

・ウェルビーイングというのは幸せ度のこと。能美市は、内閣府のデジタル田園都市国家構想交付金に2回採択されている。そのTYPEⅡ、TYPEⅢに採択された自治体を対象に内閣府がウェルビーイング調査をした。その結果、能美市は強みもあるが弱みもある。例えば買い物する場所や飲食する場所が少ない。遊びや娯楽の場所が少ない。移動や交通が不便。そういう主観的な指標が出る。能美市の192人に聞いた結果。客観データもあり、それは5万人規模の都市でどんな飲食店があるかや、バスはどんなふうに通っているかというようなことで見るのが客観的なデータ。その主観と客観を混ぜた数値をウェルビーイングと言って、それぞれ強みと弱みを出して、この弱みを克服して地域ブランドを作っていこうということ。

・具体的にどんなことかという、能美ブランドやふるさと納税等を伸ばしていく。それから産業団地をさらに整備して企業立地を進め、企業さんから土地が欲しいと言われたときのために準備をしていく。住む場所も必要となる。今能美市は宅地の空きが少なく、今空いている分も間もなく埋まるので、宅地が欲しいと言われている状況。子育て世代に選ばれるまちにしていこう。そして、これだけ地域ブランドを上げてでも能美市ってどこにある、どんなことをしているといったことが、皆さんに知ってもらわないと駄目なので、知名度も高めていく。

・買い物や飲食店は結構あるのではないかなと思っている。ドラッグストアやコンビニも結構ある。個人商店も魅力的なお店がたくさんある。にもかかわらず買い物飲食が足りないという結果。食べる場所も結構あるかなと思っていて、能美市内で満足できるのではないかなという思いはある。ただ、皆さんが言っているのは大規模店なのかなと思っていて、その候補地の一つが福島グランパーク。今企業誘致が進みおかげさまでほとんど埋まった。あと一部残っていて、そこには利便施設ということで、工場や保育園以外の施設を誘致したいと取り組んでいる。

・遊びや娯楽の施設。いしかわ動物園やアドベンチャーガーデン、手取フィッシュランドがある。へらぶな釣りができる場所やドッグランもある。九谷焼美術館、それから能美ふるさとミュージアム。児童館もあって、能美市の児童館は市外の利用者も結構多い。図書

館も3館あり、私は人口5万人規模でこれだけ揃っている市もそうないんじゃないかと思っている。ただ、皆さんもっと充実させて欲しいということだろうと思っている。

- ・今根上学習センターの2階をリニューアルしている。あそこには隕石が落ちた自動車が展示されているが、築25年以上経っているのでリニューアルして、能美市の星空が見えるようにしたいと思っている。能美市出身の仮面ライダーやウルトラマンの脚本家、佐々木守さんの歴史がわかるような展示もしていく。

- ・道林町のパークゴルフ場は、松林の中でプレーできると大変人気。このクラブハウスが老朽化しているので新しくする。そしてあの周辺に公園を作り、周囲を整備していく。

九谷焼美術館の体験館も30年近く経っているのでリニューアルしていく。

- ・国造エリアでは、民間の活力ということで、新しくフィールドアスレチックができる場所ができていたり、トレイルランニングといって山の中を24時間走る、その聖地とも呼ばれていて、エリアに点で有るものを少しずつ面にして便利にしていく。

- ・根上の翠ヶ丘、山口町。高速道路が周辺にあって海が近い。周囲に住宅地がないので、音が出るような施設を建てても大丈夫じゃないかと考えている。能美古墳群は最後西山の調査が残っている。結構お金がかかるので2028年ぐらいまでに全部終わられないかと思っている。こういった整備を我々一つの自治体だけでやるのはお金もかかるし集客の問題もあるので、広域での連携を進めていきたいと思っている。

- ・新幹線の開業とともに白山市にある新幹線の車両基地にビジターセンターができる。そこも能美市や川北町、野々市市が一緒になって誘客できないかと始まっている。小松市や川北町、加賀市や金沢市ともいろいろと連携をとりながら遊びや娯楽の市民の満足度を高めていきたいと思っていて、民間の活力も利用させてもらいたいと思っている。

- ・辰口にある旧フラワーハウスの跡地。この近くにはいしかわ動物園があり、丘陵公園がある。加賀産業道路は多くの人たちが行き交い、周囲には飲食店やスーパーもある。この場所を何か道の駅機能を持った、飲食店があつたりお土産を買えるような場所にしたいと思っている。

- ・移動交通ではやはりのみバス。本当にいろいろとやっている。ダイヤも変え、ルートも変えた。携帯電話から今自分が乗りたいバスがどこを走っているか見られるようにもなって、混雑状況も確認できる。ところがまだまだ乗車率があがらない。今年度は、例えば根上地区や辰口地区のルートを変更して、目的地までの時間を短縮して利便性を高めた。今寺井地区のルートを見直していて、将来的にはオンデマンド、あるいはライドシェアも視

野に入れていかないといけないのではないかと考えていて、ただ今日本の各地でライドシェアが広まっているが、ほとんどがタクシー会社の人材不足を担う視点でやっているところが多い。能美市の場合はどうなのかも課題だが、考えていかないといけないと思っている。

・能美根上駅がI Rになる3月16日には、何かイベントをやりたいと思っている。新幹線開業に伴って電車のダイヤが改正されるので、連結もよくするようのみバスのダイヤも変えていく。駅前にバスや電車の時間を待つ、あるいは迎えに来てくれる家族のことを待つときに、学生がちょっと勉強できる場所。Wi-Fiもあってちょっと仕事ができるような場所ということで、ワークスペースを設置することを考えている。定員が10名程度で自由に使ってもらえるようにしたいが、セキュリティも心配なので登録制にしておいて、自動ロックにしたいと考えている。

○移住・定住の促進

・能美暮らしの家というのを、能美根上駅から歩いて5分のところに作った。どういうことかということ、能美市で暮らしてみたい人に、こんな場所もありますよとか、こんな助成制度がありますよということを紹介できる場所。

・駅のホームでは、駅員室が無くなったので今空いている。これを何か活用できないか、コンコースもだいぶ変えてきたがさらに何か利便性を高められないかと思っている。東口の駐車場もいつも満車だと聞いていて、広げられないかと検討を今し始めている。

・産業団地ですが、いしかわサイエンスパークが出来てから30年が過ぎた。ただ、なかなか開発が進まないなので、石川県と協力し合ってデータセンターを誘致できないかと思っている。データセンターというのは、自然災害が嫌いで、高圧の電力が必要。この場所は環境が整っていることから、持ってこれないかを県と一緒にやっている。

・宅地の造成にも取り組んでいる。和光台4丁目まで全部分譲をしていたがほぼ完売になってきた。名鉄さんからお誘いをいただき、今和光台5丁目を分譲できるよう改修をしている。なかなか能美市だけでは売れないことから、石川県の宅地不動産協会と協定を結んで今積極的にPRしてもらっており、空き店舗バンクを作り市内の空き店舗の利活用も進めている。

・子育て環境を充実させて、子育て世代を呼び込みたいといろいろなことをやっているが、一つは給食費の無償化。まずは中学生を対象に実施した。それから、3月から小学生にも広

げていく。給食費の無償化で1年あたり約2億5000万円の財源が必要となる。令和6年度も引き続きやりたいと思っているが、財源をどうするか頭を悩ませている。

- ・施設整備だけではなく、親子が触れ合える、お友達とも触れ合える、そんなイベントもいろいろと開催をしていきたい。

- ・保育園の民営化も進め、市内では15の保育園はすべて公営でした。市民から幼児教育を受けたいという要望を受け、まずは市内の中で一番古かった福島保育園が民営化されました。皆さんから大変好評を得ていたことから、今後湯野保育園と緑が丘保育園を民営化していく。

○知名度・認知度の向上

- ・知名度の向上では、松井秀喜さんにいろいろ助けていただいたり、「シナモロール」というサンリオの大変な人気キャラクターに応援大使に就任をしてもらったりしている。話題作りも必要で、新聞やテレビにどれだけ取り上げてもらうかも大事。今、折り紙を折ってギネス世界記録を目指そうとやっている。世界記録が1万6000枚ぐらいだが、能美市は2万243枚を目標にしている。今一生懸命皆さんに折ってもらっている。来年の3月30日に審査員が来て審査をして、そこで見事世界記録が樹立されれば、これ市役所に全部展示する予定をしている。

- ・能美ブランドは、皆さんの食に繋がったり、お土産に繋がる。お土産は、皆さんがどこかに行くときに持っていってもらってお土産だけではなく、能美市に来た人を買ってもらうお土産もある。能美ブランドをさらに充実させていく。ふるさと納税は昨年好調で1億円を超えた。返礼品の基準が毎年のように変わったり、コロナ禍ということなのか高額品が最近売れない。化粧品とかお菓子が能美市ではトップ3。最近能登牛と「シナモロール」のぬいぐるみを追加したが、大変好評をいただいている。

○ゼロカーボンシティ

- ・ゼロカーボンシティというのは、2013年に排出した量よりも2030年には半分近く、2050年にはゼロにするというもの。これは全世界で取り組んでいる。このゼロカーボンシティに向けて、皆さんの企業やご家庭でも、CO₂の排出を減らすことに向けて取り組んでいただきたいと思う。

○スマートインクルーシブシティ

・インクルーシブシティ構想。インクルーシブというのは誰1人取り残さないという意味だと先ほど申し上げた。それをデジタルの力を使ってやっていこうと、事業施策の七本柱全てに既にいろんなデジタルの技術を投入している。今後、高齢者、障害をお持ちの方、外国人、子ども、自宅、保育園、学校、公民館こういった能美市に住む全ての皆さん、あらゆる場所でデジタルの力を使っていくことが重要だと考えている。

・主だったものを少しだけ紹介すると、ひとつは医療介護情報連携システム。病院に入院していた人が自宅で療養をするとする。退院後はかかりつけの医院に行ったり、ケアマネさんがお世話をしてくれるが、カルテが別なのでこの人が病院でどんな病気でどんな治療を受けたか見れない。どんな薬を処方されていたかかかりつけ医さんでもわからない。そういった情報を全部クラウドに入れて、必要なときに必要な情報を取り出せるようにしようとしてやり始めている。

・IoT家電の活用。最近の空気清浄機は、センサーがついていて、「最近寝るのが遅いです。大丈夫ですか。体調に異変がありませんか」と喋る。その機能を使って、能美市からの大雨洪水警報や避難指示などの危機管理情報を流せるようにする。またスイッチを入れる間隔が長くなると登録してあった家族に安否が確認できません、と連絡がいくようにする。能美市には1人暮らし世帯が約2600ある。まず100人を対象に、来年度からこれを始めていく。これをモデルケースにして、市民の皆さんでやってみたいという方がいらしゃればどんどん広げていきたいと思っている。

・公民館の活用。市内に公民館は84あるが、全部Wi-Fiを設置した。そうすることで小学生がタブレットを使って公民館で勉強ができる。高齢者は出前講座やスマホ教室ができたり、公民館に行けば病院の先生と話ができて、オンライン診療がうけられるという、こんなことを考えている。市内も広いのでエリアによって差別化するような形で将来的に実施できないかと考えている。

・のみ商業協同組合さんは今地域通貨を検討されている。来年度、市も一緒になってできないかと思っている。システムの標準化といって、能美市ではいろんなシステムが稼働しているが、これは法律が一本変わる、税率がひとつ変わるだけで何千万というお金を使ってシステムを改修している。本当にもったいない話で、これをシステムを標準化させることで変更の経費を少なくさせようと国がやろうとしている。

・フリーアドレスというのは、自分のオリジナルの机を持たない、そんな仕事のやり方。

能美市は今大きく分けて四つの場所がある。本庁舎、寺井庁舎、サンテ、それから根上総合文化会館。どうしても打ち合わせなどは、辰口の市役所でやっている。それをフリーアドレスにして、パソコン1台あればどこでも仕事ができるようにする。そうすればわざわざ人が移動せずWeb会議でやる。そうすることで時間も短縮できるし、経費も削減できる。来年の4月から部分的に初めて、試行錯誤しながら市役所全体をフリーアドレス化できないかと考えている。

○おわりに

・2050年にはスマホがなくなると言われている。Smartグラス、スマートコンタクト。メガネやコンタクトの中に、スマートフォンの機能が全部入ってくるそんな時代があと25年後くらいに来ると言われている。そういった時代を見据えながら、能美市もデジタル技術を導入していき、そして地元の商工会の皆さんと一緒にしっかりと地元産業の振興から、市民の安全安心幸せに取り組んでいきたい、そんな思いをしている。

4. 質疑応答

(質問1)

【参加者】加賀市がライドシェアをするが、能美市は何か考えているか。

【市長】先ほども申し上げたが、ほとんどはタクシー会社と契約してやろうとしている。今能美市にはタクシー会社が残念ながらないので、タッグを組める会社が無い。あとは例えば事故を起こしたときに、それが誰の責任になるのか等いろんな課題があるので、そう思うとタクシー会社と契約することが一番安全だし、利便性が高いというのを知って、国もそういった流れの中でやっている。どうやってやろうかは考えている。

【参加者】加賀市は温泉旅館のバスを利用したりしている。

【市長】能美市も一部ではそんなことを考えている。例えば、福祉施設のバスは、朝夕は使っているが昼間は使っていないということもあって、それをうまく利用できないかという思いはある。ただそれは、個人ユースにはなかなかない可能性がある。だから大人数の人たちを運ぶライドシェアは見えてきているが、パーソナルなライドシェアはまだハードルが高いと思っている。

(質問2)

【参加者】I o T家電を自分で買って市が補助する、というようなこともできるのか。

【市長】まず今回はシャープと三菱だけ。これは我々が求めていた機能を持っているのがシャープと三菱だったということ。まずは100世帯がモデルになる。これは使っていただくということで、試験的にやる。将来的には買っていただくとか、賃貸するとかになるのではないかと思う。

(質問3)

【参加者】市史編さんをされているが、かなりいいものができるだろうと思っている。広くいろんな方に読んでほしい。特に子どもたちにも読んでほしい。

【市長】そこは二つ考えないといけない。一つは多くの人に読んでもらえる内容にすること。難しい言い回し、文字ばかりではみんな読まないだろうから、図説を入れたり、日本語の表記もできるだけ子どもたちにも読みやすくする。もう一つは、印刷すると高くなるので電子図書にするか。電子図書にすると印刷費が低減でき、多くの人に読んでもらえるかと思う。

(質問4)

【参加者】辰口にハンバーガーチェーンのお店が欲しい。

【市長】市でもいろいろな企業に声をかけたりはしているが、できるだけそういう皆様のご希望をかなえられるよう、誘致していきたいと思う。

(質問5)

【参加者】根上のフラワーセンター跡地はどうなっていくのか。

【市長】検討中。私とすると宅地にしても良いのではという思いもあったが、地元の方達とも相談をしながら決めていきたい。

(質問6)

【参加者】市外の知り合いから、今度能美市行くけどどこ行けばいい、と聞かれたときに何と言えばいいか。

【市長】能美市のホームページを見ていただくと、いろんな観光のルートが出ているので、

ぜひそれを見ていただければと思う。皆さんにもいろんなところを見てもらいたいと思う。特に能美ふるさとミュージアムは学芸員が案内すると全然違う。1人で行かれてもなかなか案内できないが、ぜひ商工会の皆さんで行ってみてもらえれば。

(質問7)

【参加者】能美市の施設、全部月曜日がお休みなのを何とかしてほしい。

【市長】確かに月曜日休みの施設が多いが、月曜日休みだということが定着すれば皆さんもそれでわかってもらえるんじゃないかとも思っている。職員にとってもなかなか連休が取れないが、月曜日を休みにすることで前後の休みを取ってもらおうとか、そういう考えもある。そういったご意見は確かにあるかもしれない、一度検討する。

(質問8)

【参加者】能美ふるさとミュージアムの中に飲食店があったらいい。

【市長】最初考えていたが、常設しても平日は利用されるのかという思いもあって、イベントごとにキッチンカー等を呼んだりしている。少し歩くが、さらにも利用してもらえればという思い。ただ、確かにそんな声はお聞きするので、利用者がもっと多くなってきて、需要が高まれば検討していきたい。

(質問9)

【参加者】「シナモロール」を商工会で使うことはできるか。

【市長】お土産を作ったりする事は可能。ただ、直接サンリオさんと契約してもらい、サンリオさんの確認を取って使わせてもらうということになる。何にでも使えるけれど、商工会さんが、サンリオさんと話をしてもらい費用やデザインを決めていくことになる。

【参加者】ひぽ能んゆず美んの使用申請を毎年出しているが、申請書をなくして誰でも自由に使えるようにできないか。

【市長】どんどん使ってもらいたいという気持ちはあるが、そんなに厳しい申請ではないと思うのでお願いしたい。

(質問10)

【参加者】翠ヶ丘運動公園が新しくなった。あそこの夕日は日本海で一番美しいと思って

いる。ぜひ活用してほしい。

【市長】わかりました。参考にしたい。

5. 閉会